

2015年3月期第1四半期 ご参考資料

日本通運株式会社 経営企画部(IR)

I. 経営状況

- A. 2015年3月期第1四半期決算の概要 P. 1
- B. セグメント別状況 P. 2-
- C. 国際関連事業売上高比率 P. 6

II. 外部環境の変化

- A. 増減要素(1Q) P. 7
- B. 外部要因の想定(2Q以降) P. 8

2014年7月31日

I. 経営状況



A. 2015年3月期第1四半期決算の概要

1) 概要 (連結)

(単位: 億円、%)

	2015/3期 1Q実績 ①	2014/3期 1Q実績 ②	増減額 (前年比) ③=①-②	増減率 (前年比) ④=③÷② x100	上半期予想 (5月8日 発表) ⑤	進捗率 ①÷⑤ X100	差額 ⑤-①	通期予想 (5月8日 発表)
売上高	4,529	4,087	441	10.8	9,000	50.3	4,470	18,700
営業利益	91	80	11	14.5	200	46.0	108	450
経常利益	120	110	9	8.7	240	50.1	119	530
当期 純利益	47	68	△21	△31.3	160	29.4	112	300

2) 連結経営指標

(前年同期実績)

(億円未満切捨て)

・売上高営業利益率	2.0%	(2.0%)
・売上高経常利益率	2.7%	(2.7%)
・ROE	3.6%	(5.3%)
・ROA	1.4%	(2.1%)

◇事業環境に関する認識と確認(経済環境・物流業界の状況)

個人消費を中心に、消費税率引き上げにともなう駆け込み需要の反動減が見られたものの、企業収益の改善や設備投資の増加が続くなど、景気は緩やかな回復基調で推移。こうした経済情勢を背景に、消費関連貨物や建設関連貨物などが一時的に減少したが、生産関連貨物が底堅く推移し、輸送需要は総じて増加傾向を示した。

◇日本発着の輸出入貨物の環境

航空・輸出貨物については、自動車関連の出荷が中心である状況に変化はないものの、取扱重量が前年実績を割り込むなど、当初期待したほどの回復を見せず、低調に推移。航空・輸入貨物の取扱いは、情報機器、自動車関連を中心に好調を維持したほか、千葉県市川市の新施設BILT-2(ビルト・ツー)を中心としたロジスティクス業務が堅調に推移。

海運・輸出貨物においては、一般商業貨物の取扱いが、依然として回復せず、規模の大小はあるものの、設備輸送が売上げを下支えする状況が継続。

海運・輸入貨物については、これまで好調だった太陽光パネル関連の荷動きが鈍化し、一般的に低調に推移。

◇海外会社の状況

海外の第1四半期は、1-3月期。

海外会社は、前年対比で、116億円、18.4%の増収。

米州、東アジア地域で、倉庫配送、トラック輸送といった域内物流が好調を維持し、欧州、南アジア・オセアニア地域では、航空フォワーディングの取扱いが回復。

◇通期の業績予想

5月8日発表の業績予想を据え置いた。

I. 経営状況



B. セグメント別状況

1) 複合事業

(単位：億円、%)

	1Q実績	前年同期対比			上半期業績予想(5/8発表)対比		
	15/3期	14/3期	増減額	増減率	上半期予想	進捗率	差額
売上高	1,809	1,748	60	3.5	3,639	49.7	1,829
セグメント利益	25	23	2	11.0	71	35.8	46
概況	・消費増税後の反動減は限定的であり、自動車運送、鉄道取扱が堅調に推移し、増収						

2) 警備輸送

	1Q実績	前年同期対比			上半期業績予想(5/8発表)対比		
	15/3期	14/3期	増減額	増減率	上半期予想	進捗率	差額
売上高	138	136	1	1.0	277	49.9	138
セグメント利益	3	3	0	3.1	5	65.2	1
概況	・顧客からの合理化要請が一巡し、新規の設定便業務も開始したため、増収増益						

3) 重量品建設

	1Q実績	前年同期対比			上半期業績予想(5/8発表)対比		
	15/3期	14/3期	増減額	増減率	上半期予想	進捗率	差額
売上高	127	93	34	36.5	207	61.8	79
セグメント利益	5	5	0	15.1	11	51.5	5
概況	・国内では、シャット・ダウン・メンテナンス業務、風力発電関連が堅調に推移し、増収 ・海外においても、マレーシアでの大型プラント工事が好調につき、増収						

Copyright © 2014 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2015年3月期第1四半期 ご参考資料

2

◇複合事業・・・増収増益

個別の売上高の数字をベースとして、鉄道取扱の売上高は、+0.3%。

6月は貨物列車の運休が多く、対前年で△1.6%となったが、当・第1四半期全体では、堅調に推移。

自動車全体の売上高は、対前年+1.4%。

内訳は、積合せの自動車運送が、対前年+1.1%、貸切りは、対前年+1.4%。

懸念していた消費増税後の反動減の影響も限定的だったと見られ、重厚長大型のお客様をはじめとして、足元の輸送需要は堅調な状況が継続。

倉庫の売上高は、△0.1%となったが、通販関連をはじめとするロジスティクス業務の取扱い自体は、工場内に計上している分も含めて、順調に推移。

◇警備輸送・・・増収増益

お客様の合理化要請が一巡したことに加え、各種費用削減の効果がでてきたところへ、当・第1四半期から新規の設定便業務が始まったことが大きく寄与。

◇重量品建設・・・増収増益

国内では、シャット・ダウン・メンテナンス業務が当・第1四半期に集中したほか、風力発電関連の取扱いも堅調に推移。

海外においても、マレーシアでの大型プラント工事などが順調に伸びたことにより、大幅な増収。

I. 経営状況



B. セグメント別状況

4) 航空

(単位：億円、%)

	1Q実績	前年同期対比			上半期業績予想(5/8発表)対比		
	15/3期	14/3期	増減額	増減率	上半期予想	進捗率	差額
売上高	443	435	7	1.7	916	48.4	472
セグメント利益	6	10	△4	△39.2	27	24.1	20
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輸出貨物の重量が減少したが、好調な輸入貨物と国内貨物に支えられ、増収 ・ 輸出版売単価の下落および、輸入の拡大にともなうオペレーション体制の再構築により、各種費用が増加し、減益 						

5) 海運

	1Q実績	前年同期対比			上半期業績予想(5/8発表)対比		
	15/3期	14/3期	増減額	増減率	上半期予想	進捗率	差額
売上高	292	338	△46	△13.6	611	47.9	318
セグメント利益	15	21	△5	△28.1	30	49.9	15
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般商業貨物の輸出が回復せず、輸入も低調に推移したため、減収 ・ 海外引越輸出においても、引越規模の小型化などにより、減収 						

◇航空・・・増収減益

輸出が振るわず、当・第1四半期3ヶ月間で、日本発輸出航空貨物の取扱い重量は、△2.0%。

方面別の内訳では、米州地域向けが△14.6%、欧州地域向けが+8.3%、アジア・オセアニア地域向けが+0.1%。

取扱いの多かった品目は、各地域ともに自動車関連。欧州向けに医療機器、アジア向けに電子機器関連の荷動きもあった。

輸入については、生鮮貨物の取扱いが低調だったものの、情報機器、自動車関連が好調を維持。1月から稼働している千葉県市川市の新施設BILT-2(ビルト・ツー)を中心としたロジスティクス業務も堅調に推移。

国内貨物の取扱いも好調を維持し、全体で増収を確保。

減益に転じた要因としては、輸出重量の減に加え、当・第1四半期に入り、仕入単価は横ばいながら、販売単価が若干下落したこと、また、輸入の拡大にともない、オペレーション体制の再構築に必要な各種費用の増があったこと等が挙げられる。

◇海運・・・減収減益

輸出については、一般商業貨物の取扱いが、依然として回復せず、当・第1四半期も、主に設備輸送関連が売上げを支える状況が継続。

輸入は、これまで好調だった太陽光パネル関連の荷動きが鈍り、青果関連の取扱いも振るわなかったことから、全般に低調に推移。

海外引越についても、輸出において、引越規模の小型化などにより、減収。

内航海運の取扱いは、好調を維持しているが、海運セグメント全体では、減益。

I. 経営状況



B. セグメント別状況

6) 米州

(単位：億円、%)

	1Q実績	前年同期対比			上半期業績予想(5/8発表)対比		
	15/3期	14/3期	増減額	増減率	上半期予想	進捗率	差額
売上高	182	158	24	15.3	368	49.7	185
セグメント利益	9	2	6	242.1	12	72.0	3
概況	<ul style="list-style-type: none"> 米国内のトラック輸送、倉庫配送が好調 メキシコでの自動車関連設備輸送により、海運・輸入フォワーディングが堅調 現地通貨ベースでも、増収増益 						

7) 欧州

	1Q実績	前年同期対比			上半期業績予想(5/8発表)対比		
	15/3期	14/3期	増減額	増減率	上半期予想	進捗率	差額
売上高	197	163	33	20.7	397	49.7	199
セグメント利益	4	1	3	337.2	6	78.9	1
概況	<ul style="list-style-type: none"> トラック輸送を中心とする域内ビジネスは苦戦 ドイツ、オランダ、英国において、航空フォワーディングが好調 現地通貨ベースでも、増収増益 						

※海外の第1四半期は、1-3月期。

◇米州・・・増収増益

為替の影響を除いた、現地通貨ベースにおいても、増収増益。

米国においては、生鮮関連の取扱いは振るわなかったものの、当・第1四半期も、自動車関連のお客様の、域内のトラック輸送、倉庫配送が好調を維持。メキシコでは、自動車関連のお客様の、設備増強にともなう輸送を獲得するなど、海運・輸入フォワーディングが堅調に推移。

◇欧州・・・増収増益

現地通貨ベースの実績でも、増収増益。

トラック輸送を中心とする域内ビジネスは、引き続き苦戦を強いられているが、当・第1四半期では、主戦場であるドイツ、オランダ、英国において、航空フォワーディングが回復を見せ、なかでも輸出貨物の増加が収入のみならず、利益の増に大きく貢献。フランコバール社も、主力のイタリアで、航空・輸出フォワーディングと倉庫配送の取扱いを増加。

I. 経営状況



B. セグメント別状況

8) 東アジア

(単位：億円、%)

	1Q実績	前年同期対比			上半期業績予想(5/8発表)対比		
	15/3期	14/3期	増減額	増減率	上半期予想	進捗率	差額
売上高	230	196	34	17.5	471	48.9	240
セグメント利益	3	2	1	64.9	8	41.2	4
概況	<ul style="list-style-type: none"> 自動車関連のトラック輸送が増加 香港、台湾、韓国における倉庫配送の取扱いも堅調 現地通貨ベースでも、増収増益 						

9) 南アジア・オセアニア

	1Q実績	前年同期対比			上半期業績予想(5/8発表)対比		
	15/3期	14/3期	増減額	増減率	上半期予想	進捗率	差額
売上高	139	115	23	20.8	285	48.8	145
セグメント利益	2	1	1	51.9	6	43.7	3
概況	<ul style="list-style-type: none"> シンガポールの重機建設事業、タイの航空・輸出フォワーディングが伸長 フィリピン、ベトナム、インドネシアでの航空・輸出フォワーディングおよび倉庫配送の取扱いが増加 現地通貨ベースでも、増収増益 						

※海外の第1四半期は、1-3月期。

◇東アジア・・・増収増益

現地通貨ベースでも、増収増益。

中国では、当・第1四半期も、自動車関連のお客様が、引き続き増産を続け、トラック輸送の取扱いが大幅に増加。

香港、台湾、韓国における倉庫配送の取扱いも堅調に推移。

◇南アジア・オセアニア・・・増収増益

現地通貨ベースでも、増収増益。

シンガポールでは重機建設事業が、タイは航空・輸出フォワーディングの取扱いが伸長。

フィリピン、ベトナム、インドネシアにおける荷動きが活況で、特に航空・輸出フォワーディングおよび倉庫配送の取扱いが増加。

I. 経営状況



B. セグメント別状況

10) 販売

(単位：億円、%)

	1Q実績	前年同期対比			上半期業績予想(5/8発表)対比		
	15/3期	14/3期	増減額	増減率	上半期予想	進捗率	差額
売上高	1,021	914	107	11.8	2,031	50.3	1,009
セグメント利益	15	10	5	53.3	23	66.4	7
概況	<ul style="list-style-type: none"> 石油類の販売単価が上昇したことにより、増収 輸出梱包をはじめとするロジスティクス・サポート事業が回復し、増益 						

11) その他

	1Q実績	前年同期対比			上半期業績予想(5/8発表)対比		
	15/3期	14/3期	増減額	増減率	上半期予想	進捗率	差額
売上高	266	91	175	191.3	510	52.3	243
セグメント利益	2	1	1	73.9	6	37.1	4
概況	<ul style="list-style-type: none"> 日通・パナソニック ロジスティクス社が収入の増加に寄与 ロジスティクスファイナンス事業が堅調に推移し、増収 						

C. 国際関連事業売上高比率

目標	進捗状況
2016年3月期 国際関連事業売上高比率 40%	2015年3月期1Q実績 33.2% 【参考】 2014年3月期 32.5%、2013年3月期 29.7%、2012年3月期 30.8%

◇販売・・・増収増益

日通商事において、石油類の販売単価が上昇したことにより、増収となったほか、輸出梱包業務をはじめとするロジスティクス・サポート事業が回復したこともあり、増益。

◇その他・・・増収増益

前年度第4四半期から連結子会社となった、日通・パナソニック ロジスティクス社が、収入の増加に大きく寄与。

日通キャピタルにおいても、ロジスティクスファイナンス事業が堅調に推移。

◇国際関連事業売上高比率

経営計画の最終年度である2016年3月に、国際関連事業売上高比率を40%に到達させることを目指しているが、当・第1四半期では、海外会社が順調に売上げを伸ばした結果、33.2%となった。

II. 外部環境の変化



A. 増減要素（1Q）

変動要素	連結業績への影響 (1Q)	参考
燃油費単価変動 による影響	燃油費 4.3億円 (費用増)	(前年同期) 軽油 : 120.08円/ℓ (111.35円) ガソリン : 151.99円/ℓ (143.65円) 船舶重油 : 73.97円/ℓ (69.36円)
為替(円安)に よる影響	売上高 71.2億円 営業利益 1.2億円	(前年同期) USD : 102.78円 (92.42円) EUR : 140.79円 (122.04円) HKD : 13.25円 (11.92円) RMB : 16.90円 (14.88円)

II. 外部環境の変化



B. 外部要因の想定（2Q以降）

変動要素	連結業績への影響 (2Q以降の9ヶ月)	前提条件
燃油費単価変動 による影響	燃油費 8.7億円 (費用増)	(前期年間平均) 軽油 : 121.63円/ℓ (114.92円) ガソリン : 152.13円/ℓ (147.21円) 船舶重油 : 73.73円/ℓ (71.24円) 使用量は前年と同量と想定
為替(円安) による影響	売上高 81.7億円 営業利益 1.2億円	(前期年間平均(※)) USD : 102.50円 (97.65円) EUR : 141.00円 (129.68円) HKD : 13.20円 (12.59円) RMB : 16.80円 (15.91円)

(※) 年間為替レートは参考値。決算では四半期平均レートを、現地通貨建の四半期実績に適用している。



本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。

また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。

万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。